

試料の制作を試みてみた。(㊦) カメラレンズのヒズミによる誤差は、0.5% 以下を確認し、基準写真図との比較法により、被服製作に必要な各部の寸法を得る方法を試みてみた。

C—37 鹿児島県某女子短大学生の体型分類について
——「シルエット」写真機の応用による——

鹿児島女短大 ○加地 悦子
平山 千賀
内村三津子
住本 守央
斧田大公望

1. 衣服寸法の設定、並びに衣服型紙の製作においては、その基礎研究として、着衣の対象となる人体の計測的研究が必要である。

衣服寸法研究グループの調査研究の一環として、これまで Martin 氏の人体測定器を使用して、計測を行なった経験があるが、今回は、「シルエット」写真機を使用して計測を行い、さらに体型調査とその分類を試みるのを目的とした。

2. 「シルエット」写真機(210mm 大口径レンズ、600W ストロボ同調、クイックコピーシステムによる自動現像、酒井特殊カメラ製)を使用し、被写体の正面と側面を実物1/10に縮尺された写真図を一枚のコピー紙上に現像する方法を採用した。昭和43年7月当校女子学生を対象として撮影の上、測定を行なった。

3. この方法により被験者の羞恥心を少なくし、1人当たり30秒で短時間で多人数の資料を得ることができた。また写真撮影によって、人の手による計測誤差の個人差をなくすことができた。(i) 1日に800名の測定ができた。(ii) 当地域での基準となる体型を数種定めて、被験者がどのような分布になるかを調査した。(iii) 被験者等の追跡調査や、全国的分類に役立てるために、将来のコンピューターによる固型認識、パターン分類の基礎原点